

過去に災害被害に遭った生徒の心をケアされた先生からのアドバイスをもとに、具体的な生徒対応についてまとめてみました。生徒面接にご活用ください。

1 「個別面接」を行う意味について

生徒が体験したことを私たちの思い込みで決めつけるのではなく、今回の災害に対するさまざまな立場での体験についてしっかり聴き、その体験を通して、個々の生徒が受けた恐怖や痛み、不安等を受け止め理解を示すことで、その生徒に“自分の感情を保証し、それに共感してくれる人がいる”という体験をさせること。

〔 生徒に目的を説明する場合 = ていねいに、敬意をもって伝えましょう 〕

「今回の災害をいろいろな立場で見聞きし恐怖や不安を感じている人もいると思いますが、それは自然な反応です。とはいえ、これから先のことも考えていかねばなりません。そこで、今後について一緒に考えていくため、まずはあなた達ひとり一人が今どんな思いでいるのか聴かせてください。」

2 「個別面接」を行うときのポイント

- (1) 生徒と面接を行う前に、まず先生方自身の“こころ”を整えましょう。私たちも被災したり、通勤等に時間を取られたり、心身ともに疲労しています。その状態で生徒の話を聴くと、感情が揺さぶられ、つい聴き過ぎたり自分が語ってしまったりして、適切な生徒対応ができません。そこで、① 生徒と会う前に、5分程度で良いので周囲の人と自分のことを話しましょう。
② 話し終えたら、深く深呼吸しましょう。
③ これから「教員として」「サポートする大人として」生徒の前に立つ、と自覚してHRに行きましょう。
- (2) 「面接」の時間をきちんと設定しましょう。生徒はさまざまな状況にありますが、全員同一の時間で面接しましょう。生徒に「○○さんは長い時間聴いてもらっていたのに」という気持ちを抱かせないようにしましょう。そうして、例えば5分間設定ならば、3分間話を聴いて、残り2分は現実的な話（夏休みの学習計画や、進路やクラブの話など）に戻して面接を終えましょう。非日常の話で終えず、現実的な「いま自分がすべき」ことに立ち返らせることが大切です。
- (3) 教員が、サポータータイプで穏やかな態度でそばにいることが、生徒に安心感を与え、自分で対処できるという感覚を高めます。
- (4) 何があったか聞きだし、詳細を語らせないでください。トラウマ（精神的な外傷）直後に、その体験を詳細に語らせることで深刻さが増す場合があります。逆に、生徒の方が語りたがることもあります。そのようなときは「いま、あなたの現在のニーズを知り、今後のことを考えるための面接をしている」ことをていねいに説明し、今後もっと適切な場で体験を語る機会（専門家との面談等）を設けることを約束し、設定時間内で聴いてください。
- (5) 不安が高まると、ボディタッチや甘えた態度など発達的には退行しているように見えることがあります。が、高校生として向き合い、できれば大人同士として話しましょう。そうすることで、生徒の心配や不安に、こちらが敬意を払っているというメッセージを送ることになります。

- (6) ボランティア活動もトラウマ（精神的な外傷）になることがあります。 猛暑と異臭の中での土砂等の撤去作業で生々しい残骸を目にし、被災者から悲惨な体験を伝えられ、やりきれなさ・不条理を肌で感じることも、感受性豊かな思春期にとって大きな心的外傷になります。もちろん、自主的なボランティア活動は称賛し認めるべきですが、学校が再開され日常を取り戻しつつある中で、「自分は何をすべきか」現実に立ち返らせましょう。どうしても困っている人を助けたいのであれば、別の活動（例えば、被災した家の子どもの家庭教師や話し相手になるなど）を勧めましょう。
- (7) 3年生の中には、他校の同じ中学校出身の同級生の安否を心配している生徒が多くいます。 このような生徒たちのケアは重要ですので、事前に出身校を情報として持って面接することをおすすめします。わかりやすい反応だけでなく、いつもより元気で頑張りすぎる、あるいは反対に感情の起伏が見られない、頭痛・めまい・お腹の不調・食欲減退・夜眠れない（眠った感じがしない）等の身体症状も、ストレス反応と考えられます。それは、被災後すぐには表面化していなくても、翌週あたりで出てくる場合もあります。何かあったら学校に連絡をしてくるよう伝え、安心感を与えましょう。

3 親のサポート

生徒に十分な情緒的な支えを提供できるよう、「親の機能」を補強し支えましょう。子どもへの対応について親自身が不安になっている場合は、こういう時だからこそ「親として」子どもの食事・睡眠など当たり前のことをしっかり支えてくださるよう話しましょう。

親自身も被災したりして恐怖・不安等を抱えている場合があります。 生徒の面接と同様に、親からの相談電話も「〇時までなら」と時間を区切って話を聴き、必要であればSCとの面談等の紹介をしましょう。

また、ボランティア活動に参加している生徒については、現状では親も止めることはできないでしょうから、親の対応として、

- ① 帰ってきたら風呂に入れる。
- ② 30分でよいのであったことを聴く。その時にはゆっくりと「よくやったね」と受け止め、助言や否定などしない。 の2点をお願いしましょう。